

ばんけい

教育ほんといっしょ

かわら版

こ みち  
教育の小径 No.176

2023 June

6月号



(一財)総合初等教育研究所 参与

北 俊夫先生



今月のことば

おに め なみだ  
鬼の目にも涙

日ごろは鬼のように冷酷にふるまっている人でも、ときには情に感じて慈悲の心が生じ、涙を流すことがあるというたとえです。

## 確認したいノート指導の大切さ

- 子どものノートの記述内容は学びの軌跡です。ノートを見ると、教室で日ごろどのような授業が行われているかを捉えることができます。
- ノートには多様な利用方法があります。そのひとつは、授業での問題解決的な学習の展開に合わせてながら記述していく方法です。

## なぜノートがあるのか

わが国の学校で、ノートが使用されるようになったのは、子ども用の鉛筆が普及し始めた第一次世界大戦後から昭和の初めになってからだと言われています。当時は帳面とか雑記帳といわれました。それまでは、石盤といって、粘板岩の薄い板に石筆で文字や絵などをかいていました。布で拭いて消し、繰り返し使っていました。石盤はかくスペースが狭く、重いので持ち運びが困難でした。ノートが普及すると、子どもが筆記する機会が増え、講義式授業や暗記型学習を大きく変えました。

ノートに文字や文章、図表やグラフなどをかき表したり、紙面上で計算、処理したりすることで、知識の理解度や技能の習得状況を高めるとともに、学習に主体的に取り組む態度を養うことができます。かくという行為をとおして、表現力はもとより、思考が促され論理的に考えたり、全体を構想したりする能力がはぐくまれます。ノートは子どもに学力をつける優れた学用品だといえます。しかし、近年ノートパソコンの普及によって、鉛筆で書くことが少なくなりました。子どもたちの指の筆圧とともに、文字や文章を書く力が低下しないか危惧されています。

ロイロノート等の活用によって、ややもすると手薄になりがちなノート指導ですが、デジタル時代だからこそ、その復権が求められるのではないのでしょうか。伝統的に使用されてきた紙ベースのノートを使用することの意味と大切さを改めて確認したいものです。

## ノートの多様な利用法

小学校で使用されているノートは、紙面が学年や教科によって違います。中学校や高等学校では「大学ノート」が一般的です。

子どものノートを見ると、教師が板書したことを書き写しているもの、教科書の題材を視写しているもの、自分の調べたことや考えたことを書いているもの、単にメモを記録しているだけのもの、さらに教師の作成したワークシートをノート代わりにしているものなど、利用の仕方は実に多様です。

ノートに記述された内容を見ると、教師は日ごろどのような指導を行っているのかを垣間見ることができます。「ノートを見れば授業がわかる」ということでしょうか。ノートに書かれた文字を見ると、その子どもの性格や指導上の課題が見えてきます。教師が楷書で丁寧に板書すると、子どもたちも読みやすく書くといえます。

ノートが構造的に記述されている子どもは一般に学力が高いようです。ノートの記述力や構成力と学力は相関関係がありそうです。子どもに学力をつけるには、ノート指導が避けてとれない課題だといえます。

## ノート構成のサンプル

ノート構成のサンプルを示します。授業を問題解決的に展開するとき、板書を問題解決的に構成し、ノートも問題解決の流れに沿って自分の考えなどを記述させていきます。ノートを1単位時間に1見開きで構成するよう指導している取り組みもみられます。

まず、本時のめあて（今日の課題）を書かせます。教科や単元によっては課題に対する予想や仮説を書かせることもあります。これらは本時の終末で振り返らせる事項になります。

次に、めあて（課題）をもとに追究・解決していきます。ノートに配布された資料を糊づけさせることもあります。追究した順に番号を書かせると、展開がわかりやすくなります。

そして、終末では本時を振り返り、本時のまとめを書かせます。まだわからないことやできないことなど課題も書かせると、次時の学習や家庭学習に発展させることができます。

6月 今月の記念日

4日 虫の日

手塚治虫らによって設立された「日本昆虫クラブ」や「カブトムシ自然王国ムシムシランド」の運営会社によって制定されました。

## 比べてみたら違います

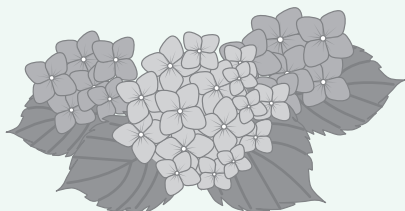
アサガオとヒマワリの葉っぱを比べた啓介さんは、「違ってるところがたくさんありました」と発言しました。先生は「よく見つけたね」とほめたあと、「ほかに違いはありますか」とほかの子どもに尋ねました。

アサガオとヒマワリには、さまざまな部分（部位）に違いがあります。啓介さんは葉っぱに目をつけて、違ってるところがたくさんあったと発言しています。丁寧に観察したことが想像されます。ところが、教師はアサガオとヒマワリは葉っぱに違いがあると発言したことに安心してしまったのか、「ほかに違いはないか」と、子どもたちの関心を拡散させています。

ここでは、啓介さんの発言に『葉っぱに違いがたくさんある』といいましたが、葉っぱのどこにどのような違いがあるのですかと突っ込みを入れます。葉の様子に焦点を当てて観察させることで、葉の大きさ、形や色、枚数、葉脈、肌触りなどの観点から、両者にはさまざまな違いがあることに気づかせることができます。

このように、教師は啓介さんの発言に間髪をいれずリアクションすることによって、子どもたちは両者の違いについて理解を深め、観点を設定して観察する力を身につけていきます。

このあと「葉っぱのほかに違いはありませんか」と問いかけ、花や茎、全体のつくりにも目を向けさせます。



## 消えゆく手書きの文化

デジタル化の進展は学校における教育活動を大きく変えています。そのひとつに、教師も子どもも文字や文章を手書きする機会が従前と比べて少なくなったことをあげることができます。

教師は会議に提出する文書や授業で活用する資料をパソコンなどで作成しています。かつては手書きされたプリントを見ると、誰が作成したものがわかりました。文字に個性が表れていたからです。子どもたちは手元のタブレットをノート代わりに、文字を入力して文や文章を作成しています。パソコンに平仮名を入力し、キー

ボードを押して次々に変換していくと、書けない漢字や曖昧な漢字を正しく表すことができます。便利な反面、鉛筆などで文字を手書きすることによって培われた表現力や理解力や思考力などの能力が十分育まれないのではないかと不安視する声が聞かれます。

授業を参観していると、漢字の書き順や止めや払いなどが正しくできない子どもがいることに気づきます。私たちもパソコンに頼って仕事をしていると、漢字を覚えなくなったことや正しく書けなくなったことに気づきます。

文化庁の国語世論調査でも、90%を超える人が「手書きの習慣を大切にすべきだ」と回答しています。デジタル社会にあっても、手書きの文化を大切にしていきたいものです。

## 北俊夫の「実践と研究」の足あと44

### 学習指導要領改訂との関わり

学習指導要領はほぼ10年おきに改訂されてきました。私は社会科の改訂にこれまで4回関わってきました。

1度目は平成元年版です。低学年の社会科と理科が廃止され、生活科が誕生したときです。主体的に学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などが重視された「新しい学力観に立つ教育」が推奨され、座学による学習から体験的な活動が重視されました。社会科では、6年の歴史学習に関連して42名の人物が例示されました。このとき私は、東京都教育委員会の指導主事でした。

2度目は平成10年版です。改訂のキャッチフレーズは「ゆとりのなかで生きる力を」でした。学校完全週5日制への移行を見据えて、各教科の授業時間が縮減され、それに伴って学習

内容が厳選されました。「総合的な学習の時間」が創設されました。社会科の学習指導要領改訂の担当教科調査官として直接関わり、ブルーの表紙の『解説』の作成に携わりました。

3度目は平成20年版です。「生きる力」をはぐくむという基本理念は引き継がれました。社会科では社会の形成者として必要な公民としての資質・能力をいかに培うかが課題になりました。このときは岐阜大学教授。改訂の当事者でなくなると、学習指導要領に対する見方が変わりました。

4度目は平成29年版です。それまで頻繁に使用されてきた「学力」に変わって、「資質・能力」の用語が登場しました。各教科等の学習指導要領の目標や内容の構成が改められ、指導方法についても示されました。このときは国士舘大学教授でした。

### INFORMATION

## この夏から学びが変わる 新刊!! 夏休み教材

全体監修 田中 博史先生

国語監修 桂 聖先生

算数監修 森本 隆史先生

ナツカラ

5・6年 標準版

各400円



### 編集後記

手書きには潜在意識を呼び覚ます効果があると言われていて、一説には手書きでないと働かない脳の部分もあるのだとか。アイデアが欲しい時こそ、紙に書きだすことが必要ではないでしょうか。脳が刺激されるのはもちろん、可視化されるため、ディスプレイにらめっこしていた時には思いつかない発想が浮かぶと信じています。(Y記)



企画・編集：ぶんけい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2023年6月1日